長久手市役所　会場風景　　2025/01/16　研修室　参加者15人

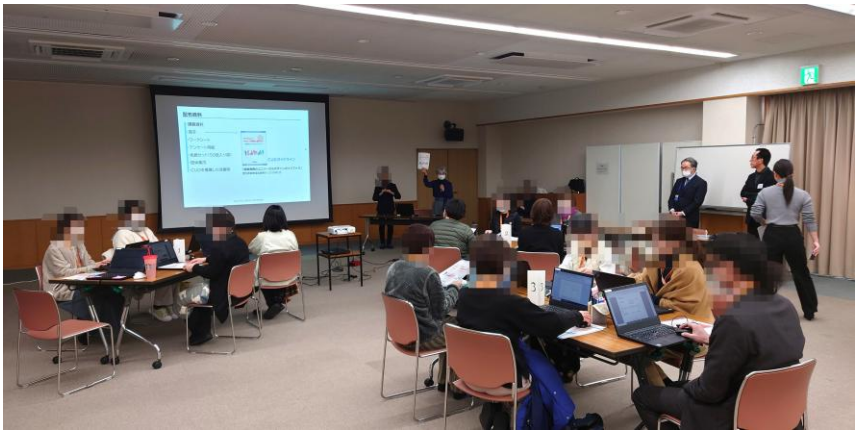

図1
推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」
聴覚障がいの方の参加があり、開始前、手話通訳者がプレゼン内容を把握する打合せを行って実施した。

図2
推進講座第一部のワーク
講義の途中で、色弱模擬体験を行う。色弱模擬フィルタ（バリアントール）をかけて、50色の色紙を赤・黄・緑・青・無彩色の系統別に5分類するワーク。結果について周囲とシェアしながら、赤系の中に緑系、無彩色系の中に淡いピンクや水色が混じっている等、色が見分けづらいことに気づく。当会によるカラーユニバーサルデザイン推進のワークショップでは必須のプログラムとなっている。

図3
推進講座第二部のワーク
受講者が持参した印刷物のチェック（プログラムA）。ごみ収集カレンダーの色づかいについて、受講者がD型強度のスタッフに情報の伝わりやすさを確認している。

刈谷市役所　会場風景　　2025/01/29　保健センター　三階講座室　参加者28人

図4
推進講座第一部の講義「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」
県発行「視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック」4頁＿P型、D型の見え方の傾向と特徴を解説したスライド画面。受講者席で県の視察者の参加があった。

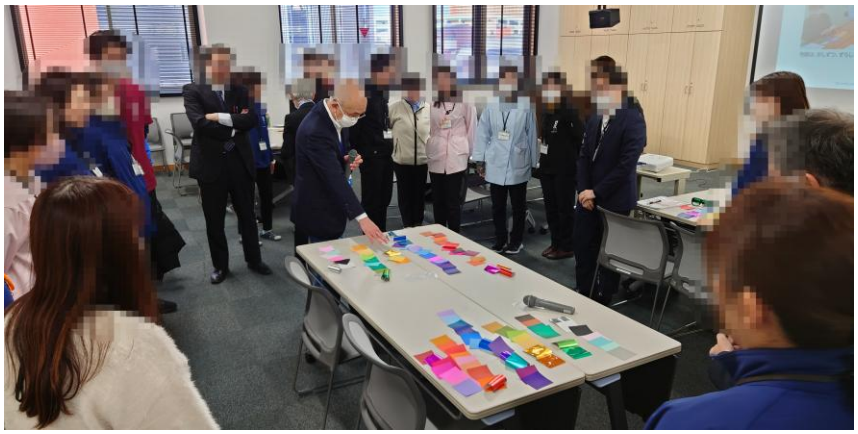

図5
推進講座第一部のワーク
講義の途中で色弱模擬体験（図2のキャプチャ参照）を行った後、色弱当事者の講師（中央）が同時進行で分類したものを見せながら質疑応答し、参加者と当事者が直接交流する。色弱者が見分けづらい色の組み合わせを実感できる。

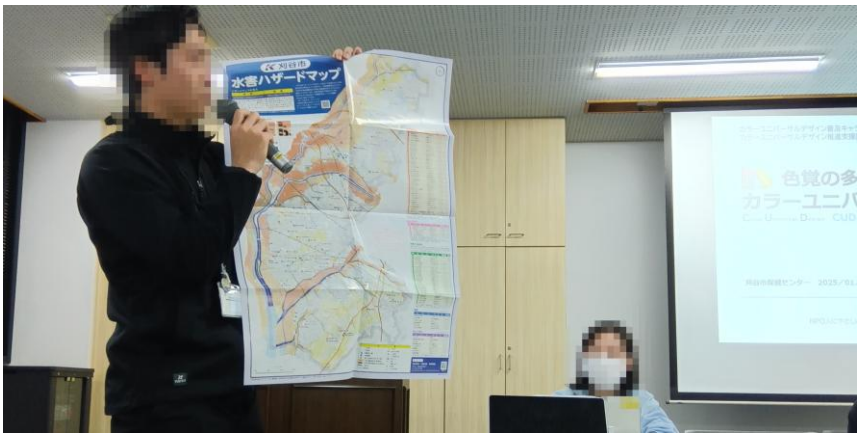

図6
推進講座第二部のワーク
受講者が持参した印刷物のチェック（プログラムA）。ワークの最後に各グループの代表者が気づきや感想を発表する。保健センター職員の受講者が多い中、危機管理課からも参加があり、水害ハザードマップの避難所情報の伝わりにくさ、改善点等について気づきの発表があった。

武豊町役場　会場風景　　**2025/02/04　2階第3・4会議室　参加者19人**

図7
推進講座第一部の講義
「色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン」の途中で当事者の談話が入る。シミュレーション画像を用いて、P型強度には缶コーヒーの注意書き（背景が黒で文字が赤）がほとんど読めないこと等、自身の見え方や困り事を説明している。

図8
推進講座第二部のワーク
受講者が持参した印刷物のチェック（プログラムA）。CUDの視点で真剣にチェックする風景が見られた。

図9
推進講座第二部のワーク
ワーク中は講師らがグループになったテーブルを回り、参加者と話し合い相互に理解を深めていく。受講者がWEB上のパンフレットを見せたところ、ワーク講師が文字のセパレーション効果を指摘。ちょうど第一部の講義で学んだばかりだった。